

I. 2010年度の活動報告と今後の方針

委員長 白瀬 敬一

2011年3月11日に東北地方を襲った大地震、大津波は、我々の予想を遙かに超える未曾有の被害をもたらしました。また、福島第一原子力発電所のトラブルは未だに予断を許しません。こうした被害を目の当たりにすると自然の脅威と人間の無力感を痛感しますが、戦後の復興、神戸大震災の復興を振り返ると、我々は決して無力でないことも分かります。復興には10年あるいは20年を要すると思いますが、復興から日本再生へ向けたシナリオの中で、グリーンマニュファクチャリング（省エネ、低公害）やサステイナブルマニュファクチャリング（循環型、再生型、持続型）を世界に先駆けて実現したいものです。

これまで本専門委員会はFA（Factory Automation, Flexible Automation）の進化に対してハードウェア、ソフトウェアの両面で貢献をしてきましたが、持続可能で柔軟な“ものづくり”を実現するSFA（Sustainable and Flexible Automation）への転換に繋がる基礎研究や技術開発を担えるように、今後も活発な活動を展開していきたいと思えます。

2010年度は総会の他に講演会・見学会を4回開催いたしました。

- (1) 犬山国際ユースホステルで宿泊研修会、ヤマザキマザック(株) 美濃加茂製作所で見学会を実施しました。宿泊研修会では参加者による研究紹介や文献紹介を行って、次世代生産システムに求められる研究や技術について討論を行いました。
- (2) システム制御情報学会 サイバネティック・フレキシブル・オートメーション研究分科会との共催で、大阪大学 中之島センターにおいて開催しました。工作機械を使いこなすための新しい支援ソフト技術に関する3つの講演をお聞きして、今後の課題や展開について討論を行いました。
- (3) 神戸大学自然科学系先端融合研究環 精密生産研究重点研究チームとの共催で、神戸大学 梅田インテリジェントラボラトリにおいて開催しました。サービス工学に関する4件の招待講演、精密生産研究重点研究チームによる6件の研究報告に続いて、サービス産業における生産工学や生産技術の応用や展開について討論を行いました。
- (4) (株) ダイフク研究・研修センター、(株) 日に新た館で講演会と見学会を実施しました。マテハン・ロジステックス技術の総合展示場「日に新た館」を見学して今後のマテハン技術の動向をお聞きするとともに、作業者に配慮したスケジューリング手法の講演をお聞きして、今後の課題や展開について討論を行いました。

また、本報告書の研究報告では、“ものづくり”に関わるシステム化技術および固有技術に関する各委員の研究紹介および論文紹介を掲載させていただきました。

最後になりましたが2011年度につきましても、なお一層のご支援を賜りたく宜しくお願ひ申し上げます。